

# 強く美しい森 再生願い1500人

## 加賀海岸に 1万本植樹

松くい虫の被害が広がる国定公園加賀海岸（加賀市）の緑を再生するための「ふるさと森づくり植樹祭」が三十日、加賀市と林野庁石川森林管理署、イオン環境財団（千葉市）の主催で行われ、ボランティアの市民ら約千五百人が苗木一万本を植えた。（林勝）

### 主役の木、実は広葉樹

市によると、加賀海岸では江戸時代後期に大聖寺藩が塩害を防ぐためクロマツの植樹をしたが、その多くは活着せずに失敗が続いたという。明治時代後期には国が本格的に植樹に乗り出し、累計二十万本を超えるクロマツを植えて美しい松林が広がった。だが、数年前から広がりはじめた松くい虫の被害は現在、全体の九割に達する勢いだ。

実態を重く受け止めた加賀市は、財団法人国際生態学センター（横浜市）に調査を依頼し、三年がかりで加賀海岸の環境に合った品種の植樹を決めた。センター所長の宮脇さん「植生調査で（加賀海岸の）土地本来の主役はタブノキなどの広葉樹だと分かった。多種類の広葉樹を共生させて、厳しい自然条件でも長持ちする本物の森づくりをするべきだ」と強調した。

今回の植樹にはタブノキ約三千二百本やトベラ約千八百本のほか、マサキやヤブツバキなど十種類以上の広葉樹の苗木が用意された。宮脇さんが「ふるさと森づくり」の森づくりです。一生懸命に植えてください」と参加者を激励、来賓の森喜朗前首相も「緑豊かな加賀市の象徴として、森が育ってほしい」と呼び掛けた。

参加者らは指示に従って一本一本苗木を手で植えた後、わらを根元に丁寧に敷き詰めて、森の再生を願った。

海岸の森の再生を願って、市民らは丁寧にタブノキなどの苗木を植えた＝加賀海岸で

